

平成28年度
全国学力・学習状況調査
の結果について



平成28年11月
泉南市教育委員会

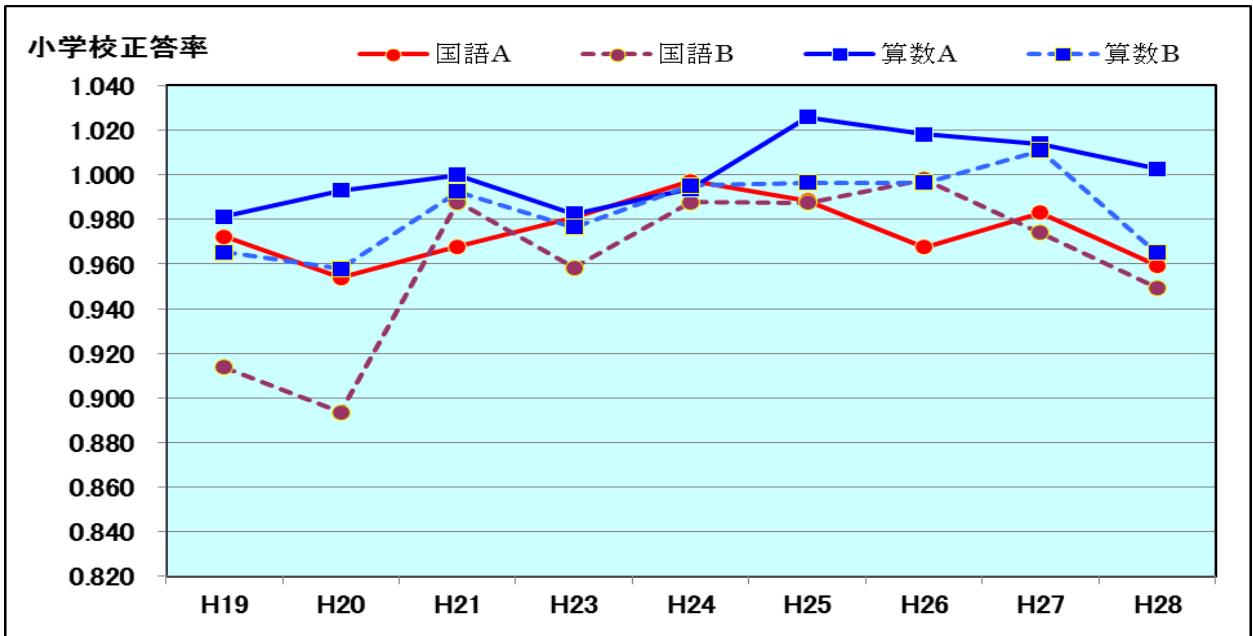
小学校の結果の概要

1、 経年変化の様子 対象学年は第 6 学年 平成 22 年度は悉皆調査は実施されず。

国語	全国学力調査						大阪府学力調査				全国学力調査							
	H19		H20		H21		H23		H24		H25		H26		H27		H28	
	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題
泉南市	77.2	53.0	59.8	42.0	66.1	48.8	86.4	62.2	72.9	64.7	60.5	47.3	68.4	52.5	66.5	61.1	68.4	52.6
対府比	0.972	0.914	0.954	0.894	0.968	0.988	0.981	0.958	0.997	0.988	0.989	0.987	0.967	0.998	0.983	0.974	0.959	0.949
対全国比	0.945	0.855	0.914	0.832	0.946	0.966					0.965	0.957	0.938	0.946	0.950	0.934	0.938	0.910
大阪府	79.4	58.0	62.7	47.0	68.3	49.4	88.1	64.9	73.1	65.5	61.2	47.9	70.7	52.6	67.6	62.7	71.3	55.4
全国	81.7	62.0	65.4	50.5	69.9	50.5	-	-	-	-	62.7	49.4	72.9	55.5	70	65.4	72.9	57.8

算数	全国学力調査						大阪府学力調査				全国学力調査							
	H19		H20		H21		H23		H24		H25		H26		H27		H28	
	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題
泉南市	79.0	58.6	70.7	47.8	78.4	53.4	62.3	50.0	63.2	42.7	79.1	57.1	78.7	56.1	75.9	44.6	77.1	44.2
対府比	0.981	0.965	0.993	0.958	1.000	0.993	0.983	0.977	0.994	0.995	1.026	0.997	1.018	0.996	1.014	1.011	1.003	0.965
対全国比	0.962	0.921	0.979	0.926	0.996	0.974					1.025	0.978	1.008	0.964	1.009	0.991	0.994	0.936
大阪府	80.5	60.7	71.2	49.9	78.4	53.8	63.4	51.2	63.6	42.9	77.1	57.3	77.3	56.3	74.8	44.1	76.9	45.8
全国	82.1	63.6	72.2	51.6	78.7	54.8	-	-	-	-	77.2	58.4	78.1	58.2	75.2	45	77.6	47.2

2、 経年変化のグラフ 年度によって問題の難易度が違うので大阪府平均に対する比という形で表現している。



○ 小学校では、2教科とも全国平均を下回り、算数Aのみ府平均を上回った。2教科とも本市の対前年度を下回っている。また算数Aは3年ぶりに全国平均を下回り、活用力の間われるB問題では全国との差が開いた。

3、 成果・課題のあった特徴的な設問の結果 ()内は全国との差

国語 A	成果	平仮名で表記されたものをローマ字で書く設問の正答率 55.3% (+2.1)
	課題	委員会のパンフレット作りの為、追加取材をした理由として適切なものを選択する設問の正答率 66.9%(-11.3)
国語 B	成果	目的や意図に応じて、グラフを基に、自分の考えを書く設問の正答率 49.8% (-1.6)
	課題	「パン職人」について、紹介したい内容をまとめて書く設問の正答率 44.4%(-8.5)
算数 A	成果	直方体における面と面の位置関係を理解しているかを問う設問の正答率 81.6% (+3.6)
	課題	テープ全体の長さを基にしたときの赤い部分の長さの割合が、一番大きいものを選ぶ設問の正答率 68.2%(-6.2)
算数 B	成果	ハードルの数とインターバルの関係を表し、4台目のハードルの位置を求める設問の正答率 58.5% (+2.3)
	課題	正方形の縦の長さを2cm短くし、横の長さを2cm長くすると面積が4cm ² 小さくなることの説明を記述する設問の正答率 37.1%(-8.1)

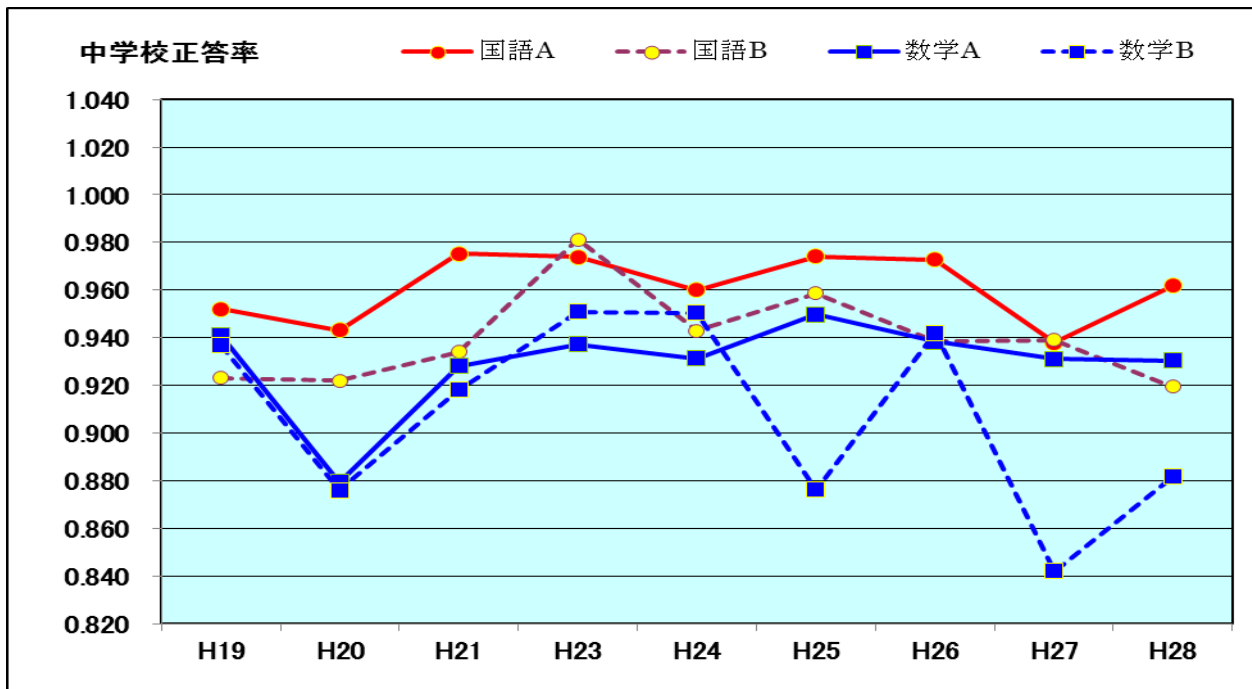
中学校の結果の概要

1. 経年変化の様子 対象学年は第 3 学年 平成 22 年度は悉皆調査は実施されず。

国語	全国学力調査						大阪府学力調査				全国学力調査							
	H19		H20		H21		H23		H24		H25		H26		H27		H28	
	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題
泉南市	75.4	60.0	66.5	50.9	70.9	63.8	67.2	52.2	62.5	44.6	71.4	60.4	74.9	44.3	69.8	60.9	70.7	58.2
対府比	0.952	0.923	0.943	0.922	0.975	0.934	0.974	0.981	0.960	0.943	0.974	0.959	0.973	0.939	0.938	0.939	0.962	0.919
対全国比	0.924	0.833	0.904	0.837	0.921	0.856					0.935	0.896	0.943	0.869	0.920	0.925	0.935	0.875
大阪府	79.2	65.0	70.5	55.2	72.7	68.3	69.0	53.2	65.1	47.3	73.3	63.0	77.0	47.2	74.4	64.8	73.5	63.3
全国	81.6	72.0	73.6	60.8	77.0	74.5	-	-	-	-	76.4	67.4	79.4	51.0	75.8	65.8	75.6	66.5

数学	全国学力調査						大阪府学力調査				全国学力調査							
	H19		H20		H21		H23		H24		H25		H26		H27		H28	
	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題
泉南市	65.3	51.8	53.2	39.6	55.6	48.2	58.2	36.8	61.0	38.4	58.6	34.0	61	53.6	59.9	34.9	57.4	38.0
対府比	0.941	0.937	0.879	0.876	0.928	0.918	0.937	0.951	0.931	0.950	0.950	0.876	0.938	0.942	0.931	0.842	0.930	0.882
対全国比	0.908	0.855	0.843	0.805	0.887	0.847					0.920	0.819	0.905	0.896	0.930	0.838	0.923	0.862
大阪府	69.4	55.3	60.5	45.2	59.9	52.5	62.1	38.7	65.5	40.4	61.7	38.8	65.0	56.9	64.3	41.4	61.7	43.1
全国	71.9	60.6	63.1	49.2	62.7	56.9	-	-	-	-	63.7	41.5	67.4	59.8	64.4	41.6	62.2	44.1

2. 経年変化のグラフ 年度によって問題の難易度が違うので大阪府平均に対する比という形で表現している。



○ 中学校は、2教科とも大阪府や全国の平均を下回っている。昨年に比べ、国語 B 以外で本市の前年度比を上回ったが、数学Bについては、依然全国とのポイントの差は大きい。

3. 成果・課題のあった特徴的な設問の結果 ()内は全国との差

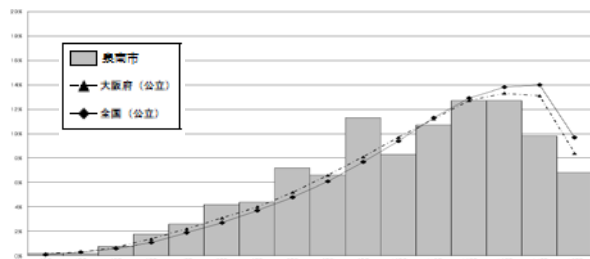
国語 A	成果	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む設問の正答率 81.4% (+1.2)
	課題	資料集を活用するときの留意点を説明したものとして適切なものを選択する設問の正答率 51.9% (-10.5)
国語 B	成果	登場人物の言動の意味を考え、内容の理解を問う設問の正答率 60.1% (q-4.6)
	課題	宇宙エレベーターについて疑問に思ったこと、それを調べるために必要な本の探し方を書く設問の正答率 33.7% (-15.5)
数学 A	成果	自然数の意味を理解しているかを問う設問の正答率 50.5% (+9.9)
	課題	読んだ本の冊数と人数の関係の表から、本の冊数の最頻値を求める設問の正答率 32.4%(-13.1)
数学 B	成果	一元一次方程式の解の意味を理解しているかを問う設問の正答率 30.9% (+1.1)
	課題	25.5 cm の靴が貸し出された回数の相対度数を求める式を書く設問の正答率 17.3% (-13.8)

小学校 国語

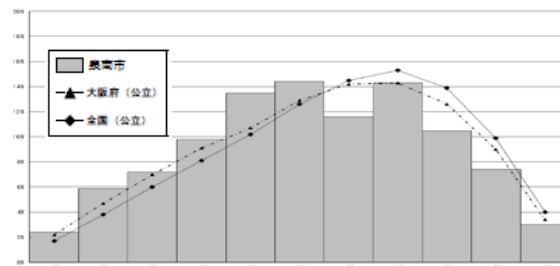
A 問題の平均正答率は 68.4%、B 問題の平均正答率は 52.6%で、大阪府や全国を下回っている。AB 問題については全国と差が広がっている。また、学力上位層が少なく、領域別では「書くこと」に課題が見られる。

1、正答数分布

<A 問題>



<B 問題>



- A・B 問題とも、大阪府や全国と同じ傾向であるが、学力上位層が少なく、その分、中・下位層が多くなっている。

2、分類・区分集計結果

分類	区分	設問数	A問題 (全15問)				設問数	B問題 (全10問)			
			平均正答率(%)			対府比		平均正答率(%)			対府比
			本市	全国	大阪府			本市	全国	大阪府	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	1	75.3	79.2	77.3	0.974	3	46.5	47.7	51.1	0.910
	書くこと	2	63.1	72.8	70.1	0.900	6	48.4	51.2	53.4	0.906
	読むこと	2	77.0	78.5	77.3	0.996	3	62.8	66.7	69.3	0.906
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	10	67.0	71.1	69.7	0.961	0	-	-	-	-
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0	-	-	-	-	4	50.1	51.7	54.7	0.916
	話す・聞く能力	1	75.3	79.2	77.3	0.974	3	46.5	47.7	51.1	0.910
	書く能力	2	63.1	72.8	70.1	0.900	6	48.4	51.2	53.4	0.906
	読む能力	2	77.0	78.5	77.3	0.996	3	62.8	66.7	69.3	0.906
	言語についての知識・理解・技能	10	67.0	71.1	69.7	0.961	0	-	-	-	-
問題形式	選択式	6	71.4	77.2	75.0	0.952	6	54.3	57.8	59.9	0.907
	短答式	9	66.3	70.0	68.8	0.964	0	-	-	-	-
	記述式	0	-	-	-	-	4	50.1	51.7	54.7	0.916

- A 問題では「書くこと」の領域で正答率が低く、B 問題では「書くこと」「読むこと」の領域で正答率が低かった。大阪府と比べても「読むこと」「書くこと」が低かった。例えば、漢字やローマ字の読み書きの定着、目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、紹介したい内容をまとめて書くことに課題が見られた。

3、成果と課題

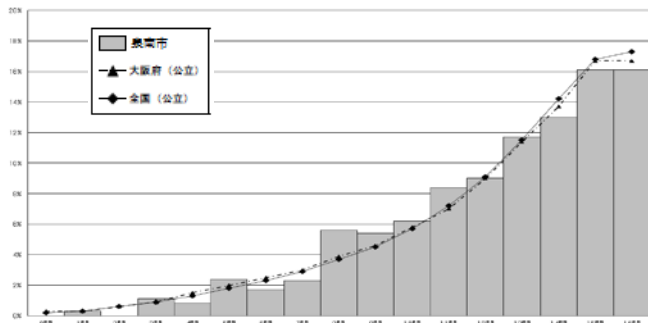
国語 A 問題	<ul style="list-style-type: none"> ▲漢字の読み書きに関して書ける漢字、読めない漢字などにムラがある。 ▲目的や意図に応じて、書く事柄を整理することに課題がある。
国語 B 問題	<ul style="list-style-type: none"> ▲活動報告文において、課題を取り上げた効果を捉え、適切なものを選択することに課題が見られる。 ▲目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことに課題がある。

小学校 算数

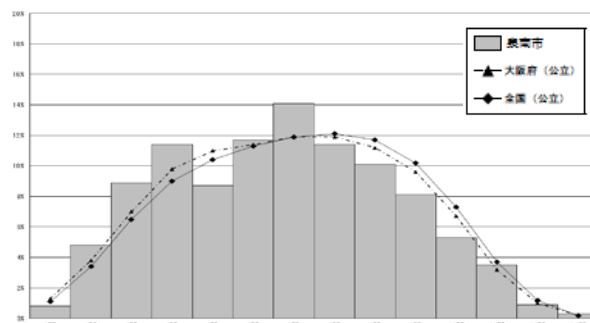
A 問題の平均正答率は 77.1%、B 問題の平均正答率は 44.2%で、A 問題の正答率については、大阪府の平均を上回っている。活用の力が問われる B 問題は、府の平均を下回っており、全国との差が開いた。

1、正答数分布

<A 問題>



<B 問題>



- A・B 問題とも、大阪府や全国と同じような傾向であるが、A 問題は上位層がやや少なくその分中位層が多くなっている。B 問題は学力上位層が比較的少なく、その分、低・中位層が多くなっている。

2、分類・区分集計結果

分類	区分	設問数	A問題 (全16問)				設問数	B問題 (全13問)			
			平均正答率(%)			対府比		平均正答率(%)			対府比
			本市	全国	大阪府			本市	全国	大阪府	
学習指導要領の領域	数と計算	10	80.4	80.5	79.8	1.008	6	41.8	44.4	43.6	0.959
	量と測定	2	76.7	77.0	76.7	1.000	5	40.4	43.7	42.0	0.962
	図形	2	81.6	78.8	77.6	1.052	3	35.5	36.3	36.2	0.981
	数量関係	3	64.5	68.5	66.6	0.968	6	40.3	42.9	41.1	0.981
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-
	数学的な考え方	0	-	-	-	-	9	37.1	40.9	39.2	0.946
	数量や図形についての技能	5	83.4	82.5	81.8	1.020	2	54.2	53.3	52.8	1.027
	数量や図形についての知識・理解	11	74.3	75.4	74.6	0.996	2	65.9	69.5	68.7	0.959
問題形式	選択式	5	75.2	75.8	74.8	1.005	5	53.0	56.7	55.2	0.960
	短答式	11	78.0	78.5	77.8	1.003	3	66.1	66.4	66.0	1.002
	記述式	0	-	-	-	-	5	22.2	26.2	24.3	0.914

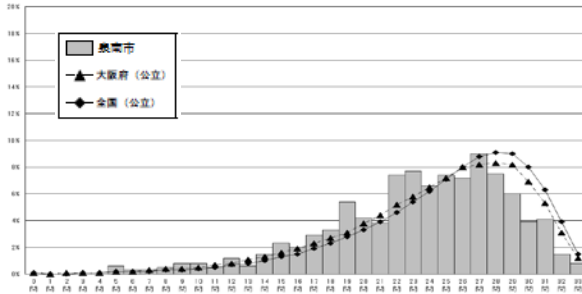
- A 問題では特に「数量関係」以外の領域で府の平均正答率よりも高く、前年度調査に引き続き、大阪府平均を上回る正答率を維持した。B 問題では「数学的な考え方」「記述式」の分野で課題が見られる。

3、成果と課題

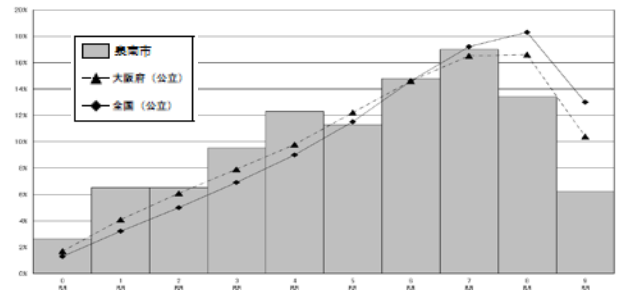
算数 A 問題	<ul style="list-style-type: none"> ○直方体における面と面の位置関係を理解し、示された面に垂直な面を選ぶ問題については理解できており、各校での日々の取り組みの成果が表れたと考えられる。 ▲「1」を超える割合を百分率で表す場面において、基準量と比較量の関係を理解することに課題が見られる。
算数 B 問題	<ul style="list-style-type: none"> ○ハードルの数とインターバルの数の関係を式に表し、4台目のハードルの位置を求めて書くことができていた。 ▲示された説明を解釈し、用いられている考えを別の場面に適用して、その説明を記述する設問について課題がある。 ▲単位量当たりの大きさを求めるために、ほかに必要な情報を判断し、特定することに課題が見られる。

中学校 国語

平均正答率は、A問題で70.7%、B問題で58.2%となっており、大阪府や全国を下回っている。領域別では、「書くこと」「読むこと」に課題がある。奥付を使って本についての情報を得ることや、課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考えることに課題がある。



1、正答数分布 <A問題>



<B問題>

○A・B問題とも、大阪府や全国と比べ学力上位層が少なく、その分中・下位層が多くなっている。その傾向は小学校以上に顕著になっている。

2、分類・区分集計結果

分類	区分	設問数	A問題 (全33問)				設問数	B問題 (全9問)			
			平均正答率(%)			対府比		平均正答率(%)			対府比
			本市	全国	大阪府			本市	全国	大阪府	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	6	73.0	78.9	76.4	0.955	0	-	-	-	-
	書くこと	4	67.2	73.7	70.0	0.960	3	47.5	58.3	53.3	0.891
	読むこと	6	72.6	78.6	76.6	0.948	9	58.2	66.5	63.3	0.919
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	17	70.0	73.9	72.2	0.970	0	-	-	-	-
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0	-	-	-	-	3	47.5	58.3	53.3	0.891
	話す・聞く能力	6	73.0	78.9	76.4	0.955	0	-	-	-	-
	書く能力	4	67.2	73.7	70.0	0.960	3	47.5	58.3	53.3	0.891
	読む能力	6	72.6	78.6	76.6	0.948	9	58.2	66.5	63.3	0.919
	言語についての知識・理解・技能	17	70.0	73.9	72.2	0.970	0	-	-	-	-
問題形式	選択式	23	68.2	73.5	71.4	0.955	5	63.7	70.6	68.3	0.933
	短答式	10	76.4	80.5	78.3	0.976	1	63.3	71.1	68.2	0.928
	記述式	0	-	-	-	-	3	47.5	58.3	53.3	0.891

○ A問題では「読むこと」の領域での正答率が低かった。B問題では、依然として「書くこと」の領域での正答率が低かった。

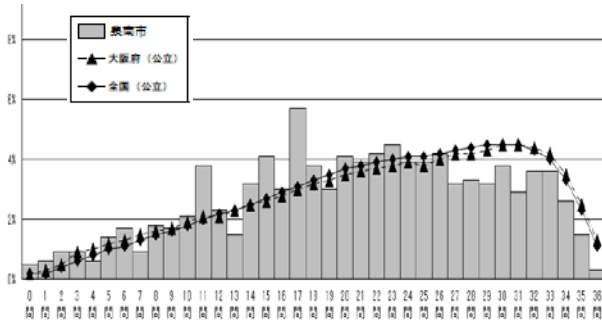
3、成果と課題

国語 A 問題	○歴史的仮名遣いを現代仮名遣いについて理解するのは、概ねできている。 ▲奥付を使って本についての情報を得て、資料集を活用するときの留意点を説明したものとして適切なものを選択することについて課題がある。
国語 B 問題	▲課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考えることに課題がある。 ▲文章の構成を捉え、雑誌の記事の説明として適切なものを選択する設問についても課題が見られる。

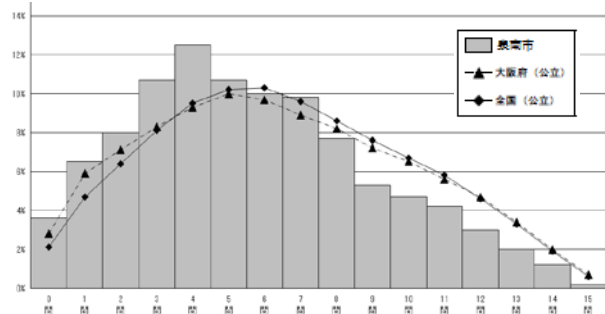
中学校 数学

平均正答率は、A 問題で 57.4%、B 問題 38.0%で、大阪府や全国を下回っている。A 問題・B 問題ともに全領域でポイントが府や全国より下回っており、課題は少なくない。中でも昨年度同様、記述式の問題で課題が見られる。

1、正答数分布 <A 問題>



<B 問題>



○ A・B 問題とも、大阪府や全国と比べ学力上位層が少なく、その分中・下位層が多くなっている。

分類	区分	設問数	A問題 (全36問)				設問数	B問題 (全15問)			
			平均正答率(%)					平均正答率(%)			
			本市	全国	大阪府	対府比		本市	全国	大阪府	対府比
学習指導要領の領域	数と式	12	62.8	65.9	66.3	0.947	6	46.3	51.5	50.5	0.917
	図形	12	62.6	67.1	65.7	0.953	2	25.3	33.3	33.7	0.751
	関数	8	44.5	52.0	51.8	0.859	5	37.2	41.4	40.8	0.912
	資料の活用	4	51.5	56.5	55.3	0.931	2	27.8	39.3	35.9	0.774
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-
	数学的な見方や考え方	0	-	-	-	-	11	33.0	38.9	38.3	0.862
	数学的な技能	19	61.8	66.9	66.4	0.931	4	51.5	58.5	56.3	0.915
	数量や図形などについての知識・理解	17	52.5	56.8	56.4	0.931	0	-	-	-	-
問題形式	選択式	13	54.8	57.8	57.9	0.946	2	40.2	41.3	41.5	0.969
	短答式	23	58.9	64.6	63.8	0.923	6	51.6	57.8	56.0	0.921
	記述式	0	-	-	-	-	7	25.6	33.1	32.5	0.788

2、分類・区分集計結果

○ A 問題では「関数」領域で正答率が低く、B 問題では「図形」領域で特に正答率が低かった。例えば A 問題で資料を整理した表から最頻値を読み取る問題や、B 問題では与えられた情報から必要な情報を選択し、数学的に表現することが苦手と感じる生徒が多かった。

3、成果と課題

数学 A 問題	○自然数の意味を理解し、正しい答えを選択することができる。 ▲資料を整理した表から最頻値を読み取ることに課題がある。
数学 B 問題	▲与えられた情報から必要な情報を選択し、数学的に表現することに課題がある。 ▲付加された条件の下で、新たな事柄を見だし、説明することに課題がある。

生活習慣や意識に関する調査（児童生徒質問紙調査）の結果

質問事項	小学校			中学校		
	泉南市	大阪府	全国	泉南市	大阪府	全国
朝食を毎日食べている	92.3	93.8	95.5	87.3	90.8	93.3
毎日、同じ時刻に寝ている	73.3	76.0	80.1	68.1	75.9	75.2
毎日、同じ時刻に起きている	87.5	88.6	90.8	87.6	90.5	92.3
ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある	93.3	93.9	94.4	<u>95.5</u>	93.5	94.3
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している	75.1	74.3	76.1	<u>71.1</u>	69.0	69.6
自分には、よいところがある	71.7	72.9	76.3	59.9	64.9	69.3
将来の夢や目標を持っている	<u>83.8</u>	83.1	85.3	<u>75.6</u>	69.4	71.1
テレビゲームをする時間が1時間以上ある（月～金）	62.7	59.8	55.0	64.9	60.2	57.1
携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が1時間以上ある（月～金）	23.9	22.9	18.5	61.2	54.6	47.8
学校の授業時間以外に、1時間以上勉強する（月～金 塾・家庭教師含む）	50.7	53.8	62.5	55.3	64.8	67.9
学校の授業時間以外に、1時間以上読書する（月～金）	10.3	14.8	16.7	10.9	11.4	13.6
家の人と学校での出来事について話をする	<u>79.6</u>	77.9	79.2	71.7	72.0	74.1
家で、自分で計画を立てて勉強する	48.7	52.6	62.2	<u>48.8</u>	46.8	48.4
学校に行くのが楽しい	<u>86.8</u>	85.2	86.3	80.0	79.5	81.4
地域の行事に参加している	52.9	57.3	67.9	37.0	35.9	45.2
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	<u>97.2</u>	95.9	96.6	<u>93.6</u>	92.2	93.6
国語の授業の内容はよく分かる	76.5	78.9	80.7	<u>75.0</u>	73.0	74.1
読書が好きである	62.7	71.0	74.6	57.9	61.9	69.9
算数（数学）の授業の内容はよく分かる	<u>82.0</u>	79.7	80.2	65.2	70.4	69.4

「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と回答した児童生徒の割合(%)

今年度実施している学力向上のための取組み

少人数指導・習熟度別指導の実施

各校に加配されている教員を中心に、学校の実態に合わせて少人数指導・習熟度別指導を実施。一斉授業では比較的難しい個に応じたきめ細かな指導を進めている。教科は、国語、算数・数学、英語で実施。単元や指導内容に応じて、均等分割、習熟度別、課題別、チームティーチング等の体制をとっている。

小学校における専科指導教員の配置

中学校教員が小学校で教科指導を行うことで、小中連携を一層推進し、子どもたちの確かな学力を育む一助となっている。H24～26年度は信達中学校区で、H27・28年度は、西信達小・一丘小において、英語科教員が高学年の外国語活動の授業に入り、学級担任とともにチームティーチングの形で授業を展開。児童の外国語への興味・関心が高まり、中学校での英語学習の素地が育成されている。

スクール・エンパワーメント推進事業の実施

大阪府教育委員会のスクール・エンパワーメント推進事業を活用し、加配教員が中心となって、学校活性化に向けた取組みを進める。組織的・計画的に日々の授業づくりや学習規律の向上、自学自習力の育成や保護者等との連携などの取組みを進めている。H25～27年度は、一丘中学校で実施し、H28年度からは泉南中学校で実施している。

退職校長、指導主事による若手教員の育成

退職校長や市教委指導主事が、各学校を訪問し、経験年数の少ない若手教員の育成にあたっている。授業づくりだけでなく、教師としての心構え、児童生徒や保護者とのかかわり方、学級経営のポイント等についてアドバイスを行っている。

学校スタンダードと学校活性化計画の運用開始

泉南市の学校スタンダーをベースに、各校の学力向上の課題に沿った形で14校の学校スタンダードを確立。「校内組織」「授業づくり」「学習規律」「家庭学習」「保護者・地域、校種間連携」の各分野において取組み内容・目標について全教職員をあげて方向性を確認。授業改善に活かしている。

学力向上に向けた重点課題

＜教育委員会の取組み＞

○教員一人ひとりの授業力向上

経験年数の少ない教員が増える中、更なる授業研究・授業力向上が必要である。教員をサポートできる研修会の実施、授業研究における支援や助言、組織的・計画的な校内研修のサポート等、大阪府教育委員会と連携しながら教員一人ひとりの授業力向上をめざす。

○小中連携の推進

学力向上については、担当者を集め、実践報告および中学校区での実践交流を行い、学力調査から見える課題と成果の共有を進める。また6年生児童（新中学1年生）においては、春休みの宿題を実施し、4月からの新たな学習に備え、復習・点検を行う。

○家庭学習の推進

家庭学習の推進のために、児童生徒、保護者向けの「家庭学習の手引き」を作成・配付し、小中9年間を通して自ら学ぶ習慣をつける。

○読書活動の推進

学校・家庭における読書の習慣化に向けた取組みを進める。

＜各学校の取組み＞

○各校に応じた学校スタンダードの確立と学校活性化計画の作成

各校の課題に沿った形で〇〇小、〇〇中学校スタンダードを確立し、全職員がベクトルを揃え、課題解決のために取り組んでいる。また、それらが形骸化しないように学校活性化計画を作成し、学校スタンダードの確実な履行に向けて管理職及び校内の学力向上担当者が中心となって進捗管理及び調整を行っている。

○「めあて・課題」を明確にした授業改善の徹底

「めあて・課題」を目に見える形で示し、授業の終わりには、それが達成できたかどうかを振り返る時間を確保する。何を学ぶか、そして何ができるようになったのかを明確にし、一人ひとりの学びを確かなものにする。

○基礎基本の学力をつけるために

一人ひとりのつまづきを把握し、朝学習や放課後学習等、授業以外の時間を有効に活用し、基礎基本の学力をつけるための取組みを更に充実する。